

文化財通信くまもと

第27号
平成21年3月
熊本県
教育委員会

新指定文化財について

平成20年度は、新たに国指定重要文化的景観1件、国登録有形文化財1件、国指定名勝1件、県指定重要文化財1件が追加されました。

(平成21年2月28日現在)

国・重要文化的景観

通潤用水と白糸台地の棚田景観 (平成20年7月28日選定)

所在地：上益城郡山都町城原ほか（「通潤橋」が位置する山都町の白糸台地一帯）

山都町の「通潤橋」周辺の「通潤用水と白糸台地の棚田景観」は、平成20年7月28日に、国の「重要文化的景観」(国が貴重として選ぶ文化財の一種)に選定されました(全国で計9件、うち九州では3件になります)。

通潤橋は、今から約150年前の江戸時代に、低い場所にある川から台地(白糸台地)上に農業用水や生活用水等を通すためにつくられた橋です。この橋を通った水は白糸台地全域を通る総延長約30kmにもなる用水路(通潤用水)を通り、白糸台地上の棚田を耕すために利用されています。そして、この用水は江戸時代から現在まで約150年間に渡って利用され、今も棚田の美しい景観をつくりだしています。

今回は、通潤用水が江戸時代から地元の人々によってずっと守られていることと、それによって耕作された棚田の景観が、国の中でも素晴らしいものであると評価されました。



白糸台地の棚田

国登録有形文化財

勝專坊庫裏 (平成20年10月23日指定)

所在地：八代郡氷川町野津4121 構造:木造(土蔵造)2階建、瓦葺、建築面積415m²

明治から大正にかけて紡績業や酒造業、ミカン栽培等で財をなした地元の富豪田河家の酒蔵を、勝専坊(淨土真宗)の住職直江祐査が大正9(1920)年に購入・移築・改造した建物で、現在も庫裏(寺務所)として使われています。旧酒蔵の建築年代は、熊本大学の調査では江戸時代後期までかかると推定されています。

本堂の北側に東向きに建ち、幅約18m、奥行約12mという大型の元酒蔵を軸にして、東側に玄関、南側と西側に書斎をつけ加え、周囲に下屋根を巡らすなど改造時の工夫がみられます。柱や梁などには太い材が使われ、移築された後に設けられた大正時代の座敷を持つことも特徴の一つです。

近隣に例を見ない大規模で力強い土蔵造の建物として、近代熊本の建築史を語る上で欠かせない資料であり、郷土史の教材としても貴重なものであります。



勝専坊庫裏

国指定名勝

しらぬい みずしま
「不知火及び水島」(平成21年2月12日指定)

所在地：八代市植柳下町字水島50（水島）、八代市鏡町北新地地先（不知火海海域）

宇城市不知火町永尾字玉反田ほか（永尾神社境内地）



水島



永尾神社遠景

不知火海（八代海）北部沿岸には、古くから景行天皇の巡幸を始めとした様々な伝承が残されています。『日本書紀』によると芦北から船出された天皇は、この島に立ち寄り食事をお攝りになりました。海中の島ということで、差し上げる水がなく、困って神に祈ったところ、たちまち水が湧き出たので、天皇に獻上したと記されています。これが水島の名前の由来であり、この島の東側には、昭和30年頃まで湧水が見られたとのことです。『万葉集』には、「聞くが如まこと尊く奇しくも神さび居るかこれの水島」「葦北の野坂の浦ゆ船出して水島に行かむ波立つなゆめ」という水島を詠んだ2首が収録されました。天保14(1843)年の水島新地（干拓）築造の際、陸続きになろうとしましたが、国学者和田巣足の建議により、今なお島としての姿を保っています。また、不知火海一帯では、毎年旧暦8月1日（八朔の日）の未明に、暗夜の海上で方角を見失われた景行天皇を陸地に導いたとの伝承もある「不知火現象」が見られる事でも知られています。

蜃気楼現象の一種で古くは龍燈（竜宮の灯り）とも呼ばれていました。発生要因ともなる広大な干潟の広がる海域とその主要な展望地点である永尾神社（宇城市）は、水島と共に、不知火海の古来からの一連の伝承にまつわる景観「不知火及び水島」として評価されました。

県・重要文化財（考古資料）

かとうだひがしばる
方保田東原遺跡出土品（平成20年6月23日指定）

物件・員数：員数28(点数139点)

遺跡所在地：熊本県山鹿市方保田字東原ほか

方保田東原遺跡は、菊地川沿いの台地に立地する弥生時代後期から古墳時代前期の集落遺跡です。遺跡は昭和60年と平成18年にあわせて約11haが国の史跡に指定されました。この方保田東原遺跡からは、青銅器や鉄器等、この地域の特徴を示す多数の遺物が出土しています。この遺跡の出土品のうち、特に重要と認められる28種（点数139点）が、県の重要文化財に指定されました。

これらの出土品には、巴形銅器と呼ばれる祭祀用具や鏡等の青銅器、全国でも類例の少ないイネの穂を摘むために利用された鉄製の石包丁形鉄器、土器に塗るために赤色の顔料をつくるための石杵等の道具、当時の建物を詳細に表した家形土器、貝製の腕輪等があります。これらは、それぞれ例が少なく、この地域の特徴を示す資料として熊本県の中での価値が極めて高いとして評価されました。



方保田東原遺跡出土品（巴形銅器）

平成 20 年度発掘調査遺跡紹介

平成20年度も、県内各地でたくさんの発掘調査が行われました(一部は継続中)。

花岡木崎遺跡（はなおかきさきいせき）

花岡木崎遺跡は、葦北郡芦北町にある遺跡です。今年度は、カマドを備えた住居が見つかりました。

人が生きるために食事をとることが必要です。そして、料理の多くは火を使います。今から約 1,600 年前（古墳時代中期）には熊本でもカマドを使い始めたことが判っています。ところが、葦北地方では約 1,500 年前（古墳時代後期）の住居の中でもカマドが見つかりませんでした。今回、約 1,200 年前の住居からカマドが見つかり、古代（奈良時代）にはカマドが使われていたことが分かりました。

住居にカマドがないのは、その住居を倉庫等に使ったり、屋外で料理したり（屋外炉）していたことが考えられます。料理の仕方ひとつとっても熊本の南北で違うこと、地域にはそれぞれの料理方法が伝わっていたことを花岡木崎遺跡は教えてくれます。



住居の壁ぎわにカマドがあります

平町遺跡（ひらまちいせき）

平町遺跡は、菊池市泗水町豊水・吉富にあり、菊池川の支流合志川の右岸に位置しています。近くに孔子公園がありますが、公園横の県道が連なる予定である原・植木線緊急道路整備事業とともに、発掘調査を行なっています。

調査 I 区では古墳時代の住居跡、調査 II 区では縄文時代の遺構を確認しています。特に I 区では 13 基の住居跡が見つかりましたが、大きく分けて中央付近に炉をもつタイプとカマドをもつタイプを確認しました。

遺物としては、小型丸底壺、高坏、甕などが炉を持つ住居跡から出土しました。また、カマドを持つタイプの住居跡からは、把手付きの甕、甕、須恵器片などが出土しました。他には有孔円盤、土製模造鏡、臼玉、土製勾玉、手捏土器、ミニチュア土器、鉄鎌、鉄鎌などが出土しています。

この地域では、古墳時代の中期から住居が建て替えられ、集落が存在していたと考えられます。住居の変遷を考える貴重な資料になるとを考えています。



カマド



古墳時代の住居跡

南畠遺跡（みなみばたいせき）

南畠遺跡は、鹿本郡植木町の舞尾交差点を玉東町方向へ約2kmほど進んだ丘陵地上にあります。国道植木バイパス改築事業にともない、平成19年6月から平成20年9月まで発掘調査を行いました。

今回の調査では、弥生時代中期ごろ（今から約2,000年前）の竪穴住居跡が20軒ほどと、奈良・平安時代（今から約1,300年～1,200年前）のカマド付きの竪穴住居跡が4軒、掘立柱建物跡が5棟、幅4m、長さ6mの小判型の土坑や大きな溝状の堀畠と呼ばれる遺構なども確認されました。

遺物では、弥生土器や土師器・須恵器などの多くの土器片が出土しました。そのなかでも、亡くなった人の骨を入れる器（蔵骨器）や萬年通宝とよばれる古銭も見つかっています。この古銭は皇朝十二銭の1つで、西暦760年からわずか5年間しか造られなかったものです。このことは、植木町が昔から玉名方面や熊本方面への交通の要所であり、文化的な交流が行われていたことを表していると言えます。



まんねんつうほう
萬年通宝

新屋敷遺跡（しんやしきいせき）

新屋敷遺跡は、子飼橋から大甲橋にかけての白川左岸側に位置します。今回、白川河川改修に伴い、国土交通省所有地の一部を発掘調査しました。

発掘調査地からはこれまでに、奈良・平安時代（今から約1,300～800年前くらい）の竪穴住居跡（土を深く掘って床にして、丸木の柱を立て、その上に茅や草で屋根を作った家）、掘立柱建物跡（柱を立てる穴だけを掘り、茅や木などで屋根を作ったり、壁を作ったりした建物）が発見されています。竪穴住居跡の中からは、奈良・平安時代の人びとが使った土器、煮炊きをした跡、家の柱の跡や土間の跡が見つかっています。そのいくつかは重なり合うような状態であったことから、建物を建て直しながら、新屋敷に長い間人が住んでいたことが考えられます。調査区には幅約4m、深さ2mほどの大きな溝もあり、これは住む所を分けるための溝と考えられます。

また、近代、現代（今から約100～60年前）に作ったと思われる石垣、河原石を敷き詰めた建物の基礎としていたと考えられる跡、井戸跡、畑の跡なども見つかっています。

土の中から出てくる生活の道具は、奈良・平安時代の土師器、須恵器（料理をしたり、食べ物を入れたりした器）が主に出てきます。また、縄文土器も見つかりました。そのため、縄文時代の家の跡はまだ発見できていませんが、縄文時代後期ごろ（今から約4,000～3,000年前）には、新屋敷に人々が住んでいたのではないかと思われます。



竪穴住居跡カマド周辺、土器の廃棄の様子

山田松尾平遺跡（やまだまつおびらいせき）

山田松尾平遺跡は玉名市山田の、蛇ヶ谷公園がある台地から南西方向に伸びる丘陵の先端部に位置し、遺跡は丘陵の上部を中心に広がっていたと考えられます。地面を約5～6mの四角形に掘り込んで作る竪穴住居が40軒以上見つかっていますが、さらに多くの建物があったと考えられます。

集落の主な時期は3期あり、弥生時代中期（約2,000年前）の終わり頃、弥生時代後期の中頃から終わり頃（約1,800年前）、古墳時代前期の終わりから中期の初め頃（約1,600年前）と考えられ、集落内の人口が特に増加したと考えられます。

住居の中には、土器がたくさん捨てられており、壺（煮沸用）や壺（貯蔵用）・器台・高环（お供え）等の食器類のセットが見られます。古墳時代の住居には、ミニチュア土器（鉢・壺）や玉類（ガラス玉や滑石製臼玉）等が見られ、お祭りを行った跡も見られます。住居内から摘み鍬（稻の穂を摘む道具）や小刀等の鉄器が出土している住居もあります。調査区の北端には古代から中世の鉄を作った炉の壁を捨てた土壌が出土していて、隣接地に鉄を作った炉や工房等があったと考えられます。



住居跡内遺物出土状態

山下遺跡（やましたいせき）



遺跡調査風景

山下遺跡は上益城郡御船町下前田に所在し、飯田山据部近くに位置する中世の遺跡です。九州横断自動車道延岡線の建設工事に伴って発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、地面に穴を掘って柱を立てた掘立柱建物跡、柵跡、溝跡や100基以上の柱穴の跡が見つかりました。柱穴の跡からは、当時の人々が日常生活で使用していたと思われる素焼きの皿のカケラが見つかっています。このカケラの特徴から、山下遺跡は中世（鎌倉～室町時代）の遺跡ではないかと考えられます。

二本木遺跡群（にほんぎいせきぐん）

二本木遺跡群は、白川の下流、右岸の標高約8～10mの沖積地に広がる遺跡です。この遺跡は、以前から古代（奈良・平安時代）の国府（国ごとに置かれた役所）があった場所と推定されています。今回の発掘調査は、熊本駅周辺整備事業（道路建設、用水路掘削、陸橋の基礎工事）に伴い、7箇所の調査区（約2,700m²）を設けて発掘調査を行っています。

現在までのところ、地表から約2m下に奈良時代から平安時代の初めころ（8世紀後半～9世紀）の掘立柱建物、竪穴住居、井戸などの遺構や須恵器、土師器、綠釉陶器、布目瓦、硯、石帯、ベルトの金具、越州窯系（中国）青磁、鉄器などの遺物が見つかっています。また、鎌倉時代（12世紀～13世紀）の掘立柱建物、井戸も遺構と輸入陶磁器（中国からの青磁・白磁）、石鍋、碁石などの遺物も出土しています。

特に注目すべき遺物として、布目瓦、硯、石帯やベルトの金具などがあります。これらは、古代の建物の瓦や役人が使用した硯やベルトの一部で、当時、役所や役人が存在した証拠と考えられます。



左3点：石帯【古代役人のベルト石製飾りの一部】

中1点：円硯鏡【円形の硯の一部】

右3点：筆子鏡【「風」の字形をした硯の一部】

外牧霞鶴遺跡（ほかまきかすみつるいせき）

外牧霞鶴遺跡は、阿蘇外輪山西部の立野火口瀬から流れる白川左岸の標高約150mの丘陵にある遺跡です。県道瀬田熊本線単県道整備事業に伴って、平成19年度に実施した試掘調査により、縄文時代早期の集石遺構及び遺物が確認されたため本調査を行っています。周辺には、縄文時代早期の集石遺構で有名な瀬田裏遺跡をはじめ、瀬田池ノ原遺跡、瀬田狐塚遺跡、前畑遺跡、外牧遺跡など縄文時代を中心とした遺跡が点在しています。

本年度はI・II区の二ヶ所に分けて調査を進めました。I区の調査では、黒色磨研土器、押型・精円紋土器の破片が出土しました。また、角礫、円礫が混在し、焼け石も含まれている集石遺構も検出しました。なお、調査区内の東側には、近世の南郷往還跡の一部である可能性をもつ敷石群も出土しました。



【調査II区で見つかった周溝墓】

II区の調査では、古墳時代の面から周溝墓を6基検出した。主体部の跡を確認できるものは4基あり、そのうちの一つは石棺墓でした。上層の面が薄く、周辺で圃場整備が行われたときに残念ながら壊されていましたが、石棺の板材からはベンガラと思われる赤色顔料の跡も確認されました。

これらの発見は、縄文時代早期から古墳時代にかけての、この周辺での人々の生活の様子を知るうえで貴重な資料となるものです。今後は、さらにこの地域を大きな視点でとらえ調査結果の分析・検討をしていく必要があると考えられます。

神水遺跡（くわみずいせき）

神水遺跡は、託麻原台地の南側から江津湖にかけて広がる遺跡です。今回発掘調査を行ったのは、熊本市神水1丁目内で、県立熊本商業高校の敷地内になります。

発掘調査を進めた結果、遺跡はすでにかなり破壊されていたことが明らかになりました。これは、昭和30年代後半の校舎建替えによるものが大きいようです。当時の校舎を支えた基礎跡も見つかっています。

今のところ溝1条の他にいくつかの穴が見つかっています。ただし、かなり破壊されており、その時代や使いみちははっきりしません。溝は、調査区の外に伸びているので正確な規模は分かりませんが、長さ20m以上、幅5m以上の大きなもので、

中からは弥生土器から近代の陶磁器まで数多くの遺物が見つかっています。

残念ながら遺跡は、かなり破壊されていましたが、昔から人々がこの土地で連続と生活を営み続けていたとも言えるでしょう。



昔の溝跡と今の高校生

池辺寺関連遺跡群（ちへんじかんれんいせきぐん）



池辺寺関連遺跡群から見つかった柱穴

池辺寺関連遺跡群は熊本市池上町地内に所在し、国の史跡に指定されている池辺寺跡に隣接する遺跡です。遺跡からは、最も古いもので縄文時代の土器、石鐵（いしのやり）が出土しています。今回の発掘調査では、来迎院地区より主に平安時代の遺構・遺物が見つかりました。

遺構では複数の柱穴を確認しており、3間×2間の掘立柱建物になる可能性が考えられます。また、遺物では、土師器（赤焼きの焼き物）の壊（食器）、須恵器（青焼きの焼き物）の壊等が確認できました。特に、須恵器は、柱穴の中から見つかったものもありました。遺物から平安時代の遺構と考えられます。

今回の調査成果は、遺構・遺物を確認した来迎院という地名から国史跡・池辺寺跡との関係を考える上で、重要なものといえます。

辺田見中道遺跡（へたみなかみちいせき）

辺田見中道遺跡は、上益城郡御船町木倉にある縄文時代晚期ごろ（今から約3,000年～2,500年前）の遺跡です。遺跡からは縄文時代の人々が暮らしていた地面が2つ見つかりました。1つ目は縄文時代晚期中頃に人々が生活していた地面です。そこからは、家の跡が1軒、何かの目的のために土器を地面に埋めた埋甕が3つ、その他多数の穴が見つかりました。また、多くの土器、石で作った矢じりや斧、ドングリなどをすりつぶすに使う石皿・磨石などの道具、緑色の石で作った玉（アクセサリー）などが出土しました。そして2つ目は縄文時代晚期前半に人々が生活していた地面です。そこからは、土器が入った穴がいくつか見つかりています。1つ目の地面と同じく、土器や、矢じりなどの石の道具も出土しました。

辺田見中道遺跡から見つかった多くのモノは、現在の御船町にはるか昔の縄文時代に暮らしていた人々の生活を私たちに教えてくれます。



遺跡から出土した石の道具

幅・津留遺跡（はば・つるいせき）

弥生時代の幅・津留遺跡の第1の特徴は、お墓です。通常、北部九州の弥生時代中頃の遺跡で発見されるお墓は、「甕」の中に遺体を入れ埋葬する「甕棺墓」といわれるものです。しかし、幅・津留遺跡では見つかりません。そのかわり、木で作ったお棺に入れ埋葬する「木棺墓」と言われるお墓がたくさん見つかりました。これまでに約170基発見されています。県内で、これだけ多くの木棺墓だけの墓地が発見されている例は他にはありません。

第2の特徴は、住まいの区域（居住域）と墓地（墓域）とを幅約4.5m、深さ1.7mの大きな溝（環濠）によって区画していることです。集落のまわりに円や楕円形の溝をめぐらすものを環濠集落と言います。米づくりがさかんになると、土地や水を求めて争いに発展したといわれています。環濠は、その攻撃に備えた軍事施設だったのです。お城のお堀のようなものと思ってください。この大きな溝である環濠は、現在発見されているところから約200m先でも発見されています。どうやら長径約200mの楕円形の環濠が平らな土地を囲むようなつくりになっているようです。

熊本県内で、弥生時代の後半の環濠集落は各地で発見されていますが、弥生時代の中頃の環濠集落はたいへん珍しいと思われます。



集落を取り囲む環濠と横断面

平成20年度国・県指定及び国登録文化財一覧

指定（登録）の種類	名称	所在地	概要	建築時期、設立時期	指定（登録）年月日	備考
国・重要文化的景観	透見用水と白糸台地の棚田景観	上益城郡山都町	江戸時代の用水路と棚田の景観	江戸時代	平成 20 年 7 月 28 日	新選定
国・名勝	不知火及び水島	八代市・宇城市	不知火海における景勝地		平成 21 年 2 月 12 日	新指定
県・重要文化財（考古資料）	方保田東原遺跡跡出土品	山鹿市	地域の特徴を示す出土品	弥生時代	平成 20 年 6 月 23 日	新指定
国登録	勝専坊庫裏	八代郡氷川町	江戸時代の酒造を改造した近隣に例のない大規模な事務所	大正 9 年	平成 20 年 10 月 23 日	新指定

平成20年度 県発掘調査一覧

No	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
1	山田松尾平遺跡	玉名市	弥生・古墳・古代・中世	竪穴住居跡	弥生土器・土師器・玉・鉄器等
2	南畠遺跡	農本郡植木町	縄文・弥生・古代	住居・竈・埋煙	縄文土器・弥生土器・石器
3	満水古開原遺跡	農本郡植木町	中世	溝・掘立柱建物跡・土壤	土師器・磁器
4	新屋敷遺跡	熊本市	縄文・古代・近世	竪穴住居・溝・土壤・掘立柱建物跡・柵列	土師器・須恵器・磁器・縄文土器
5	花岡木崎遺跡	葦北郡芦北町	古墳・古代	掘立柱建物跡・竪穴住居跡	土師器・須恵器
6	山下遺跡	上益城郡御船町	中世	掘立柱建物跡・柵・溝	土師器
7	塔平遺跡	上益城郡益城町	縄文・弥生・古代・中世～近世	竪穴住居・溝・掘立柱建物跡	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器
8	野入遺跡	農本郡植木町	縄文・古代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・道	縄文土器・土師器・須恵器
9	玉名平野条里跡	玉名市	中世	鉢跡(屢數墓2基)	輸入磁器・土師器・須恵器・木製品
10	幡・津留遺跡	阿蘇郡南阿蘇村・高森町	縄文・弥生	木棺墓・祭祀土壇・環濠・掘立柱建物跡・竪穴住居跡	弥生土器・石器
11	平町遺跡	菊池市泗水町	縄文・古墳	竪穴住居跡	縄文土器・土師器
12	池辺寺開闢遺跡群	熊本市	古代・中世	竪穴住居跡・土壤・溝・柱穴	土師器・須恵器
13	辺田見中道遺跡	上益城郡御船町	縄文	竪穴住居跡・土壤	縄文土器・石器・玉類
14	二本木遺跡群	熊本市	縄文・古代・中世・近世	溝・掘立柱建物跡・竪穴住居跡・土壤墓・井戸他	縄文土器・土師器・須恵器・輸入陶磁器・基石など
15	外牧霞鶴遺跡	菊池市大津町	縄文・古墳	集石遺構・周溝墓	縄文土器・土師器
16	神水遺跡	熊本市	古代～近代	溝・土壤	土師器・須恵器・瓦等

【世界遺産への登録を目指します】

県では、3つの文化資産の世界遺産登録を推進しています。

世界遺産は、人類共有の財産として保護することが国際的に義務付けられ、その登録には世界的な価値を証明し、長期的な保護方針を確立するなど、長い道のりを要します。しかし、登録が実現すれば県民の誇りになると同時に、観光客の増加やブランド確立など地域活性化も期待されます。

世界遺産の登録に向けて、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

《熊本県が世界遺産登録を推進している文化資産》

1 「九州・山口の近代化産業遺産群」

本県の旧万田坑（荒尾市）と三角西港（宇城市）を含む、幕末以降の近代化において大きな原動力となった産業遺産群であり、平成20年12月に世界遺産の国内暫定一覧表に追加記載されました。



旧万田坑



三角西港

2 「阿蘇」

古来より火山信仰や神話・農耕祭事が伝えられ、野焼きを行うなど、自然と人との絶妙なバランスで成り立つ貴重な文化的資産であり、現在、国内暫定一覧表への記載候補として文化庁から最も高いランクの評価を得ています。



阿蘇（放牧風景）



雲海と阿蘇五岳

3 「天草のキリスト教関連遺産」

既に世界遺産国内暫定一覧表に記載されている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」への追加を目指しています。



大江天主堂と農村景観



富岡吉利支丹供養碑



崎津天主堂と漁村景観

【お問い合わせ】

熊本県教育厅文化課 世界登録推進班 TEL 096(333)2705

世界遺産登録推進 HP <http://www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni/sekaiisan/index.html>

【熊本県文化財資料室紹介】

熊本県文化財資料室には大きな役割が2つあります。

1つ目は、県の文化課が行う埋蔵文化財の発掘調査に関わる出土遺物の整理・収蔵・管理を行う施設としての役割です。出土文化財は、国民共有の財産であり、この大切な財産を、後世に残すためにいろいろな作業を行っています。

次に、その作業内容を紹介します。



★遺物の整理作業

【水洗い】

地中に埋もれて、泥まみれになった遺物の土を1つずつ、丁寧に洗い流します。このとき、遺物に書かれている文字や色まで落とさないよう十分に注意します。(写真1)



【復原・修復】

出土遺物の大部分は壊れていますので、破片を接合してもとの形に戻し(復原)、失われた部分には石膏などを補って修復します。(写真3)

【実測】

大きさや、形状などを計測し、特徴を観察した実測図を書きます。実際に遺物を観察できない人に、情報を客観的に伝えることができます。(写真4)

【保存処理】

金属や木製の出土品は、これ以上劣化が進まないよう適切な環境で保管します。鉄や青銅器は慎重に土やさびを落とし、薬品や樹脂を使って防さび・強化の処理を行います(写真5)

【写真撮影】

整理作業が終わった遺物を写真撮影し、画像記録として保存すると共に、調査報告書に掲載します。(写真6)

【報告書作成】

以上の整理作業を終えた遺物は、発掘調査の成果とともに、発掘調査報告書としてまとめられます。

文化財資料室の2つ目の役割は、文化財の保護、普及・啓発を行う活動です。国民の共有財産である文化財は、ただ保管し報告書にまとめるだけでは共有財産としては不十分です。広く、一般の方に関心をもっていただき、理解していただくことが大切です。そこで、文化財資料室では、次のような行動を行ってきました。

★文化財普及活動

展示企画展

県内で発掘され、文化財資料室で整理作業を行った遺物の速報展示を行います。



職場体験学習（ナイストライ）

中学校を対象とした、職場体験学習の受け入れも行っています。



〈受け入れ実績〉

平成19年度 7校 59名

平成18年度 8校 65名

古代体験学習会

夏休みや「くまもと教育の日」には、勾玉作りや縄文土器づくりなどの体験学習を行っています。
(写真は平成20年11月29日、12月6日に開催した体験学習会のようす)



考古資料学習キットの貸出

小中学校の社会科歴史学習の補助教材として「考古資料学習キット」を作成し、貸し出しを行っています。県内各地で発掘された本物の石器や土器を、持ち運びに便利な学習キットとしてコンパクトにまとめました。遺物に関する説明書や指導略案もついています。本物の出土遺物に触ることで、原始・古代の人々の知恵や工夫の跡を学ぶことのできる貴重な教材です。ご希望の際は、文化財資料室までご連絡下さい。



文化財資料室の城南町への移転について

文化財資料室は、平成20年7月に熊本市の渡鹿から下益城郡城南町へ移転しました。広々とした敷地を持ち、豊かな自然にも囲まれ、いろいろな体験活動を行うことができる城南資料室です。

また、城南町は塚原古墳群や阿高・黒橋・御領の3つの貝塚など熊本を代表する遺跡が発見されたところでもあります。埋蔵文化財の保存・管理・普及の機能を持つ、熊本県を代表する中心的な施設として、新しい一歩を踏み出していくます。

皆様方のご利用・ご来室を心よりお待ちしております



文化課ホームページ「くまもとの文化」 <http://www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni/index.html>

文化財通信くまもと 第27号 平成21年3月31日

発行：熊本県教育委員会文化課 TEL 096(333)2704 FAX 096(384)7220

編集：熊本県文化財資料室 TEL 0964(28)4933 FAX 0964(28)7798

印刷：敷島印刷株式会社

20 教委 教文

④ 006